

令和7年度特別企画展

伊東深水

時代の美、つややかに

Timeless Beauty
and Refined Elegance



伊東深水《さきやき》(部分) 1959年 名都美術館蔵

2025 4.15 tue — 6.1 sun

前期4月15日—5月6日 後期5月8日—6月1日 ※一部作品が入れ替わります。

開館時間：午前9時30分—午後5時(入館は30分前まで) 休館日：月曜日(ただし5月5・6日開館、7日休館)

観覧料：一般800(640)円/高大生500(400)円/65歳以上400(320)円

()内は20名以上の団体料金 中学生以下無料 障害者手帳ご提示の方(介護者1名を含む)は無料

主催：京都府、京都府立堂本印象美術館(指定管理者：公益財団法人京都文化財団)、京都新聞 特別協力：名都美術館

お問い合わせ：〒603-8355京都市北区平野上柳町26-3 Tel.075-463-0007 <https://insho-domoto.com>

Ito Shinsui, is a Tokyo-born artist, studied under Kaburaki Kiyokata, and mainly exhibited his work at government exhibitions and at the Nitten exhibition after the war. While valuing the tradition of ukiyo-e, Shinsui focused on modern culture and customs and created his own unique artistic realm by pursuing feminine beauty with a nuance of lively sensuality.



伊東深水《赤と白A・B》(部分) 1956年 個人蔵

【関連イベント】

記念座談会 **伊東深水の魅力を探掘り!** (予約優先)

深水の描く女性表現の特徴や魅力、衣裳について、各分野の専門家が詳しく解説します。

4月29日(火)・(祝) 13時30分～15時(13時開場)

京都新聞文化ホール(京都市中京区烏丸通夷川上ル 京都新聞ビル7階)

登壇者 鬼頭美奈子氏(名都美術館学芸課長)

五代龍村平蔵氏(龍村美術織物 代表取締役社長)

福田季生氏(日本画家)

林屋祐子(京都新聞社文化部)

進行 松尾敦子(京都府立堂本印象美術館主任学芸員)

聴講無料 要観覧券(半券可) ※当日会場受付にて購入いただけます

問い合わせ: 京都新聞COM(伊東深水展係)
(Tel.075-255-9757 平日10時～17時)

特別ギャラリートーク

5月17日(土) 14時～2階展示室(申込不要)

鬼頭美奈子氏(名都美術館学芸課長)

ギャラリートーク(担当学芸員による)

5月3日(土)・24日(土) 14時～2階展示室(申込不要)

【併催】

没後50年記念 **堂本印象が描く女性**

※詳細は当館HPをご確認ください。

【野外イベント】第8回野外彫刻展

4月15日(土)～6月1日(日) 美術館庭園(入場無料)

主催: 京都府、京都彫刻家協会、京都府立堂本印象美術館

特別割引

本展覧会前期に入館された方は、後期当日券を2割引で
購入いただけます。半券をご提示ください。(1回限り有効)

相互割引【名都美術館】

本展有料観覧券(半券可)提示で、名都美術館(愛知県長久手市杖ヶ池301)の特別展「堂本印象とは何者か」(4月8日(土)～6月8日(日))または企画展「第5回 FROM 一それぞれの日本画一」(6月24日(土)～8月3日(日))当日券を2割引で購入いただけます。

※1枚につき1名のみ、1回限り有効 ※その他割引との併用不可

※名都美術館当日券売所での購入のみ対象

※休館日、開館時間等の詳細は名都美術館の公式サイトをご確認ください



伊東深水《暮方》(部分) 1932年 個人蔵

伊東深水(一八九八～一九七二)は、明治31年に東京深川に生まれ、13歳の時に、浮世絵の流れを汲む美人画家の錦木清方に師事しました。16歳で再興院展に、その翌年には文展に入選するなど、早くからその才能が認められ、以後、官展を舞台に発表を行い、戦後は日展に出品しました。昭和23年(一九四八)に日本芸術院賞を受賞し、33年(一九五八)には日本芸術院会員になります。浮世絵の伝統に立ちながら現代風俗に真摯に向き合い、はつらつとした明るさのなかに色香を漂わせる女性美を表現して独自の画境を築き、日本画壇の重鎮として活躍しました。

本展は、名都美術館コレクションを中心に、伊東深水の初期から晩年にいたる代表作を紹介します。京都では19年ぶりの深水の回顧展になります。

変わるものを藉りて、
描く 変わらないものを



伊東深水《湯気》1924年 名都美術館蔵 【前期】



伊東深水《湯の香》(部分) 1927年 名都美術館蔵 【前期】



伊東深水《清秋》1953年頃 神宮徴古館蔵

交通のご案内

■ JR円町駅より市バス⑮、快速立命館、⑤③、JRバス(立命館大学経由)

■ JR京都駅より市バス⑤⑥、快速立命館、JRバス(立命館大学経由)

■ 京阪電車三条駅より市バス⑫、⑮、⑤①、⑤②

※いずれも「立命館大学前」下車

駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。お車の方は近隣のコインパーキングをご利用ください。

